

## 〈水産増殖懇話会講演会〉

### 国内養殖産業におけるこれからの育種

日時：令和6年3月27日 13：00～17：00

開催方式 対面のみ

企画責任者：澤田好史・阿川泰夫（近畿大学）

参加費：無料

会場：第3会場

13:00-13:05 趣旨説明 開会の挨拶 澤田好史（近畿大学）

座長 阿川泰夫

13:05-13:35 I. 養殖現場における育種の現状と今後の需要 （中平博史 全国海水養魚協会）

13:35-14:05 II. 養殖魚における耐病性育種研究 （坂本 崇 東京海洋大学）

14:05-14:35 III. ブリ優良系統の利用と管理体制の構築（小林真人 水産機構開発センター）

14:35-14:50 休憩

座長

14:50-15:20 IV. 優良魚 DNA 解析手法の技術進展と応用について（阿川泰夫 近畿大学）

15:20-15:50 V. ゲノム編集によるマダイの育種（家戸敬太郎 近畿大学）

15:50-16:20 VI. 育種における知財の保護について（竹川義彦 水産庁栽培養殖課）

16:20-16:55 総合討論

16:55-17:00 閉会の挨拶 阿川泰夫（近畿大学）

### 企画の趣旨

国内養殖は、多様な対象種について行われ、世界的にみて高い技術水準にあるものの、長期的には生産量が伸びていない現状にある。この原因として、魚ばなれと、近年の、養殖飼料の主原料である魚粉・油、漁船の燃料価格、電気・ガス料金、資機材の価格上昇を、養殖産品価格に転嫁できていない現状がある。加えて、海洋温暖化による生産への悪影響も顕在化している。本シンポジウムでは、これらの課題の解決策1つとして、育種に焦点を当て、生産者、研究・開発機関、行政のそれぞれの立場から、育種の需要や現状、作出品種の知財化、新しい育種技術などをご紹介頂き、これからの国内育種について議論する。